



「人の世に我が身の幸のみ
追うなかれ、まずは人の幸を
祈りて」

世界が自分ファーストへ真
っしぐらに突き進む中、何を
血迷っているのかと新年早
々、お叱りをうけそうだ。

年明けの16日、国際非政府
組織(NGO)の「オックスフ
ァム」が、世界で最も裕福な8
人と、全人類のうち、経済
的に恵まれていない下位50%
にあたる36億7500万人の資産
額がほぼ同じだと発表した。

私が驚くのは、その資産額
でも人数でもなく、格差拡大
のスピードである。

グローバル経済は二極化を
劇的に拡大する。富の還元は
ますます、困難となり、対立
と分断が世界中に波及。遂に
「音楽の都」と呼ばれるオー
ストリアのウィーンでも反政
府運動が勃発した。

イタリアオペラの巨匠ジュ
ゼッペ・ヴェルディが晩年、ミ

進む格差社会…真の豊かさとは



ラノに私財を投げ現役を引退
した音楽家のための老人ホー
ム「音楽家のための憩いの家」
を建設したのは有名な話だ。
彼自身「私の(作品の)最高傑
作であった」と述懐していた。

当時、留学生だった26歳の
私は、その憩いの家を訪れ
た。そこで誇りと生きがい
を持って元気に暮らしている老
いた音楽家の存在を知り、強
い衝撃を受けた。

日本や欧米主要国では資本
主義が果てしない発展を遂
げ、人々は豊かになった。し
かしそれは「大量生産・大量
消費」の名のもとに、常に新
製品を市場投入し、ヒットさ
せねばならないという空しい

ゲームでもあった。

世界は便利さと豊かさを求
め、極限まで疾走し続ける
が、残念ながらその行為はす
べての人類を幸せにするもの
ではない。物欲がどれほど満
たされても、なぜか心は満た
されない。

私は思う。ひとりの人間が
懸命に真っ当に働き、慎まし
くも安心して最後まで生きら
れる暮らし。その功労に感謝
し、感謝される社会制度を望
むのは、それほど困難で贅沢
な事なのだろうか…。

(さとう・しのぶ一声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

